

Nihongo Network News

2004.6.11発行

No. 46

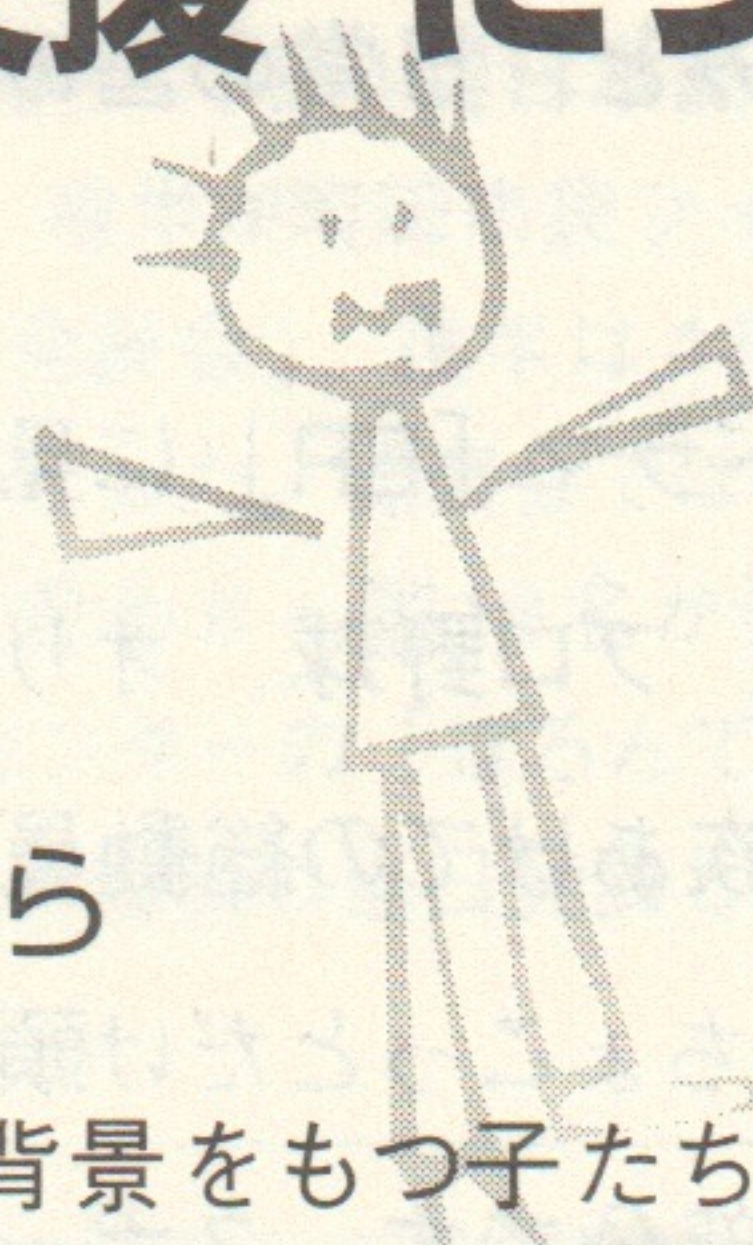
TNVN東京日本語ボランティア・ネットワークは、ボランティア日本語教室活動を行っている団体のネットワーク（連絡協議会）として、情報交換や活動の活性化を図ることを目的に、1993年12月に結成されました。TNVNの会員はそれぞれの地域で日本語教室活動を通じて、言葉のために日常生活に不自由を感じている外国人などを隣人として支援しています。

TNVN 東京日本語ボランティア・ネットワーク

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1 ☎03-3235-1171

東京ボランティア・市民活動センター メールボックスNo.4

「国際化市民フォーラムin TOKYO」の分科会で “外国人子どもの教育・学習支援”について 報告がありました。



国際化市民フォーラム in TOKYO
—東京の国際化を語る—が平成16年
2月21日(土)、文京区民センターで東京
都国際交流委員会と国際交流・協力
TOKYO連絡会との主催で開かれました。

合計8分科会に合計382名、全体会に
126名が参加し、東京の国際化の現状とそ
の課題が報告され盛況の中で終わりました。

午前の分科会は A：留学生と語る国
際化と地域社会、B：東京の国際化の
10年とこれからの課題、C：子どもたち
の教育と支援 (1)学校現場から、D：国
際協力活動の今 (1)イラクで今～市民
による平和への道づくり

午後の分科会は E：企業と外国人労
働者、F：エスニックコミュニティとメ
ディア、G：子どもたちの教育と支援
(2)地域から、H：国際協力活動の今
(2)ODAは誰のために？

全体会では分科会の報告、国際化へ
の課題についてディスカッションが行わ
れました。

分科会C、Gでは「外国人子どもたちの
教育と支援について」が取り上げられま
した。

●——学校現場から

長年外国の文化的背景をもつ子ども
のサポートに関わっておられる、善元幸
夫さん（新宿区立大久保小学校教諭）と藤田
京子さん（元墨田区立鐘ヶ淵中学校教諭）
から、小学校、中学校の現場での取り組
みと課題について報告がありました。

善元さんは子ども達の心の内面・偏見
と差別・子どもだから悩むなどを子ども
の作文を通して紹介し、外国籍児童の拠
り所になる支援について述べられました。

藤田さんは子どもたちに明確な目標を
持たせ、自分でやる環境を作り、自分自
身で自信を持たせるようにすることの大
切さ、子どもたちが増加するなかで行政
のサポートがないことへの危機感を述べ
られました。

●——地域からは

都内の広域で活動する2グループを代
表し、児玉奈々さん（多文化共生センター
東京21）と石割伸子さん（世界の子ども
と手をつなぐ学生の会）が、外国人の子
どもたちへの各区市行政の取り組み状況と子
どもたちの実情を報告し、地域と学校・行

政との連携の必要性を強調されました。

児玉さんは『東京都23区の公立学校
における外国籍児童・生徒の教育の実態
調査報告2002年』から在日外国人の滞
在長期化、定住化傾向が進む中で増加
する外国籍の子どもに関する統計デー
タが整備されていない状況と課題を、また
外国籍生徒の進路状況、行政による日
本語指導の実態等を報告されました。

石割さんは会の活動から、小中学校
では在籍校での日本語初期指導、適応
指導（～国際理解教育）、通訳派遣、母
語指導の保障が不十分なのはもとより、
学校と家庭・学校と地域・在籍学級と
日本語学級に一貫した繋がりが無い。
また公的支援が不備で各学校の教師や
支援者の個人的な努力によるところが
大きく、特にボランティアグループや個人
による支援が果たしている役割は大き
いと結ばれました。

会場からも活発な質問や意見が述べられ
子どもたちへのボランティアによる日本
語学習支援の重要性が改めて再認識さ
れました。

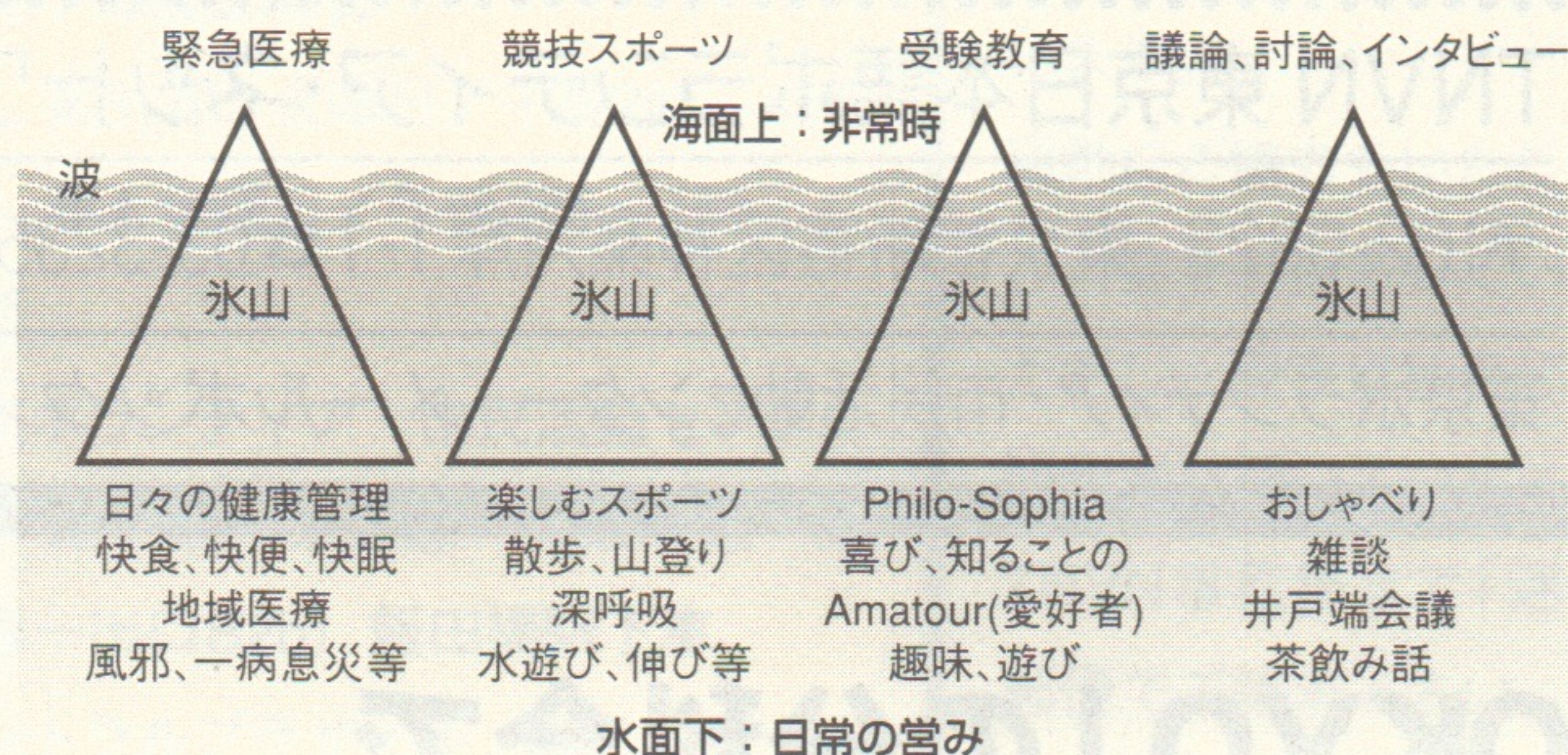
（梶村 勝利）

老いてゆくことが言祝がれる 地域作りのための教材とは？

寄稿

財)海外技術者研修協会 AOTS日本語教育センター長 春原 憲一郎

はるはら けんいちろう (葛飾中川のほとりにて)



日常の営みと非常時の発生の違いを氷山の図で

「氷山の図」は、非常時・緊急の営みと、日常の営みをあらわしたものです。

以前テレビでやっていたアメリカのドラマ「ER」に見られる緊急治療室や、大相撲、Jリーグ、プロ野球、オリンピックなどの競技スポーツ、そして家族あげでの総動員体制を生み出す受験教育など、海面上にちょこっとだけ頭をのぞかせている氷山の一角が目立つ部分です。スポーツというとプロのスポーツ、勉強というと受験教育がイメージされるのは実は不幸なことです。そこは、個人と個人が効率と競争と成果をめざして競う世界です。

しかし氷山が圧倒的に大きな図体を沈めているのは海面下です。波の下では、一見何の変哲もない市井の日常のなかで、散歩や風邪、快眠快便、団欒や遊びなどがくりかえされています。

ことばの営みに関しては、語学の教室では最近よく、ロールプレイやインタビュー、議論やディベートなどが行われますが、ふだんの生活に流れているのは「おしゃべり」ではないでしょうか。そんな観点から今回は生活者のための教材について考えてみました。

緊急医療と地域医療がちがうように、非常時の教材と日常のいとなみにうめこまれた学習教材がちがってあたりまえでしょう。それを「対照図」にしてみました。

教科書と地域教材の対照図

教科書	⇔	教材	⇔	学材	⇔	素材/資源
完成/完結/閉鎖系			⇔	生成/過程型/開放系		
規範/モデル			⇔	記述/サンプル/例		
解/(唯一の)正答	⇔	問題解決型	⇔	問題提起	⇔	問/課題探求/制作型
テキスト依存/模倣/自動化			⇔	対人依存/対話/相互行為/問主体系		
マニュアル系/使い捨て系				相手によって常に変化する		

地域の円居^{まどい}では、規範やマニュアルに則ってベルトコンベアのような勉強をするのが目的ではなく、そこで隣人同士のかかわりをもつことが大切ではない

でしょうか。そのためには、じぶんたちで創りあげていくこと、互いの消息が、自分たちの息吹やその日のお天気によって染められながら、ものを生みだしてゆく喜びをともにすること、そんな学材があればと思います。次の文は、そんな願いをこめてつくった『にほんご宝船』という本の前書きの一部です。

「この本はいっしゅのアルバムのようなもので、交流をかさねながら、各ページの空白のスペースに自分のことやいっしょに活動をしているパートナーのことを書きこみ、世の中にふたつとない本を「じぶん(たち)でつくっていく本」(Do It Yourself「DIY」の本)です。そう、「おしゃべり」ということは、よく、くだらないことのように思われがちですが、〈ゆるやかな〉隣人関係をつくっていくためには、かかせない大切な営みだと考えます。…では、「世界にたったひとつの本」づくりのはじまり、はじまり！」



学習項目のマトリックス作り

動詞	ます形	じしょ形	ない形	た形	て形	…
い形容詞	-いです	-ないです	-かったです			
な形容詞	-です	-でした				
名詞						
数詞						

最後に、文法病に憑かれているひとのための処方箋をひとつ。「学習項目のマトリックス(先日あるところこの話をしたら、それは「ビンゴゲーム」だと言ってくれた人がいました)というアイデアです。積み上げ式ではない素材でやっていって、既にやった項目に丸をつけていって自分の学習カルテをつくるというものです。じぶんが何をやっているのか、一番知りたいのは学習の当事者ではないでしょうか。それは当然ボランティアのひとが、何を紹介したか整理していくときにも役にたつと思います。

日本語ボランティア入門講習会 を振り返って

【第一期】

東京日本語ボランティア・ネットワーク(TNVN)が活動し始めた頃、事務局には、日本語ボランティアに関心を持つ人々からの相談が殺到しました。日本語ボランティアをしている人々のための講習会は、すでに何回か開催していましたが、これから始めたい人々のためのオリエンテーションのような講習会も必要だと考えていたところ、東京都丸の内庁舎内生涯学習情報センターのセミナー室を無料で借用できることになりました。それをきっかけに、1995年4月から月に2回、日本語ボランティア入門講習会を開催することにしました。

対象を日本語ボランティアに関心を持つ人、始めたい人、始めてまもない人々とし、スピーカーは、TNVNのスタッフ、会員のうちの専門的な知識や長い活動経験を持つ人々に依頼しました。6回コースとして、全回出席者には修了証を出しました。第一期の特徴は、その中に、ボランティア日本語教室を立ち上げようとする人々に役立つノウハウを入れたこ

とです。実際にいくつかの教室立ち上げに関わることにもなりました。

残念ながら、現在第一期の記録はほとんど残っていません。何回かの移動による紛失や、ワープロからパソコンに変わって、保存された記録が役に立たなくなってしまったことが大きな原因になっています。

【第二期】

1996年12月、東京都生涯学習情報センターの移転に伴い、会場借用ができなくなったため、TNVN事務局に場所を移し、曜日も変わりました。また、6回コースは長すぎるとの声もきかれたため、4回コースにしました。会員団体が新人ボランティアのオリエンテーションとして活用できるように、会員の参加費を半額にしました。1997年7月には集中4回コースを開催、また、参加者は毎月平均20名以上となりました。

【第三期】

'99年11月、東京ボランティア・市民活動センターの休館日の変更により、事

務局と共に開催日を変えました。この期の特徴とも言えるのは、「日本語を教える」を「日本語学習を支援する」と言い換えたことです。「教える」という言葉によって、ボランティア(支援者)が無意識のうちに「先生」になってしまうことが、地域の活動の中でしばしば見られたことから、自戒をこめて変更しました。

【第四期】

日本語ボランティア養成講座が各地域で開かれるようになってきたこともあり、「入門」もそろそろ任務終了ではないかと思われましたので、2003年度は各地域から12人の熟練ボランティアの人々に話しに来てもらうことにしました。修了証は前年からの継続者にのみ渡しました。2004年3月、1995年から丸9年間定期的

に開いてきた「入門」を終了しました。初めの2年間を除く7年間に1,402人の参加者を得、その1割強の149人に修了証(4回コース)を渡しました。追跡調査をしていませんので、このうち何人が日本語ボランティアとして活動しているか不明ですが、かなり多くの人関わっていることは確かだと思われ

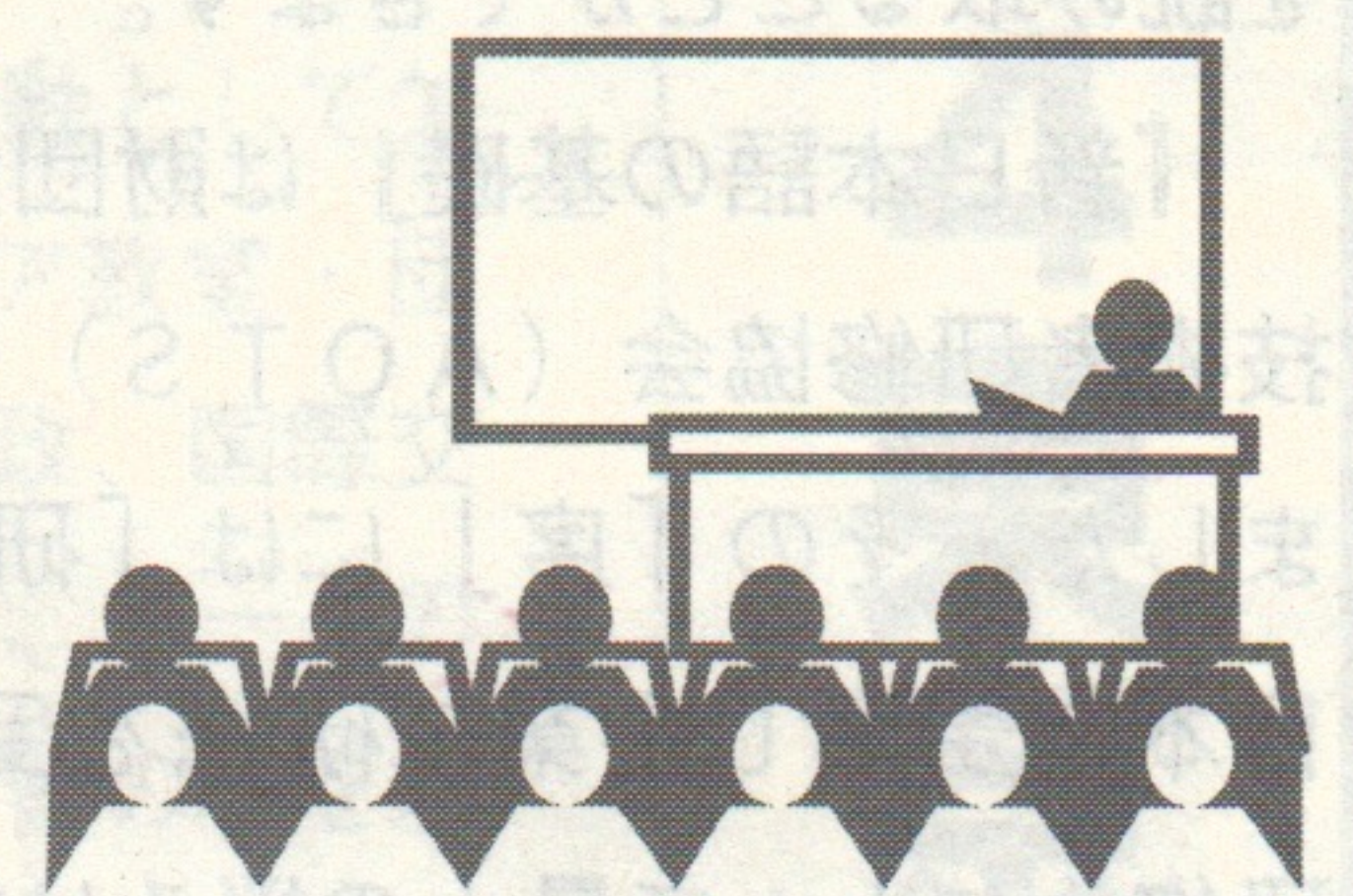
ます。また、羽村市、武蔵村山市、勤労者ボランティアセンターなどで、複数回「入門」の出前講習会を実施しました。これは今後も要望に応じて続けていく予定です。

(林川記)

日本語ボランティア入門講習会実施内容

	期間	会場	日時	内容	参加費
第一期	1995年4月～ 1996年11月	東京都(丸の内庁舎内) 生涯学習情報センター セミナー室	第2火曜日 午後2時～4時 第4火曜日 午後6時～8時	6回コース ①ボランティア日本語教室活動紹介・事例報告 ②日本語ボランティアの心がまえ ③日本語学習者の現状について ④日本語をどのように教えるか ⑤日本語を教える上での問題点 ⑥ボランティア日本語教室の開設・運営	600円
第二期	1997年1月～ 1999年10月	東京ボランティアセン ター(注)会議室	第2月曜日 午後2時～4時 第4月曜日 午後6時～8時	4回コース ①日本語ボランティア入門 ②日本語再発見! ③日本語学習者の現状 ④どのように日本語を教えるか	600円 *会員 300円 (97年9月～)
第三期	1999年11月～ 2003年3月	東京ボランティア・市 民活動センター会議室	第2金曜日 午後2時～4時 第4金曜日 午後6時～8時	4回コース ①日本語ボランティアとは ②日本語再発見! ③学習者はどのような人々か ④どのように日本語学習を支援しているか	会員 300円 一般 600円
第四期	2003年4月～ 2004年3月	同上	同上	12回(各2回ずつ) 同上テーマ、および事例報告など	同上

注) '98年4月名称変更→東京ボランティア・市民活動センター



日本語ボランティア入門講習会
参加者数

年度	午後	夜間	計	修了者
1995	53?		53?	?
1996	60?		60?	5
1997	116	134	250	24
1998	122	128	250	21
1999	141	161	302	34
2000	85	92	177	23
2001	88	79	167	22
2002	87	94	181	16
2003	33	42	75	9
*計	672	730	1,402	149

*7年間(1997～2003)の合計

一押し の 教材

日本語学習の教材は数多くあります。しかし日本語ボランティア活動で実際に使えるモノを探すのはなかなか大変です。ここでは日本語ボランティアが使える「一押し教材」を出版社から自薦してもらいました。

『みんなの日本語初級』への思い

——『新日本語の基礎』から受け継いだもの——

- 発行：スリーエーネットワーク
- 定価：本体2,500円＋税



どの教科書でも、できあがるまでにはそれぞれの経緯があります。『みんなの日本語初級』は、初級段階で必要な学習、すぐに役立つ、また中級以上への基礎作りができること、学習する側にとっては学びやすく、教える側にとっても教えやすいことを求めて、「新日本語の基礎」姉妹版として制作されました。



教科書の冒頭には一般に、「序文」とか「はじめに」があり、著者、編者の思いが書かれています。『新日本語の基礎 I』の「序」からはその製作意図を読み取ることができます。

『新日本語の基礎』は財団法人海外技術者研修協会（AOTS）で作られました。その「序」には「研修生が、日本で生活し企業で研修を受ける際、研修生にとって最大の悩みは言葉である。日本語がわからなければ、日本になじめないし、日本を知ることも難しく、工場実習の成果を十分には期待できない」と書かれています。

研修生とはいえ、はじめて日本に来て、日本語を覚えようとしたときに、まず必要なものは生活の日本語です。そういう意味では、地域の日本語教育、日本語学校、大学などで学ぶ初級日本

語学習者も同じです。

全くの初心者が、さまざまな学習条件の中で、日本語を学び、使えるようになるためには100時間（日本語能力試験4級）でも300時間（3級）でもけっして十分とはいえません。限られた時間の中で最大限に日本語を学び、使えるようになってほしいというのはそれぞれの現場の教える側の共通の思いです。技術研修生が現場の実習に行く前の6週間、または13週間という、限られた時間の中で、より効果的な日本語学習の習得と運用力アップを追求したのが『新日本語の基礎』です。『みんなの日本語初級』が出版される1998年以前に『新日本語の基礎』がさまざまな現場で広く受け入れられたのにはこのような理由によるものです。



AOTSの日本語教育のあゆみは教材開発のあゆみでもあります。『新日本語の基礎』はその前身に『日本語の基礎』（1981）があり、またその前身に『実用日本語会話』（1961）があり、教科書の改訂が行われる毎に文型や、語彙、その提出順序などが検討されました。また練習（ドリル）の方法にも研究と工夫が重ねられてきました。

「序」では、もうひとつ「一定の品位を保つ」ということに触れています。この教科書の内容やレベルをどのように理解するかは人によって異なるかもしれませんが、『新日本語の基礎』の例文や会話文を見ると、提出される表現は初級段階でも「すぐに役立つ」「覚えやすく」「研修生が日本人と日本語で話したときに相手を不快にさせないもの」が選択されています。

AOTSでは、研修生は日本語を学んだ後すぐ、それぞれの専門研修のため工場実習します。その後の学習は個人にまかされます。そのために『新日本語の基礎 I・II』はこの教科書を終えた後に自学習ができることを目指しています。まさに、この姿勢は『みんなの日本語初級 I・II』に引き継がれています。学習者はそれぞれ背景や状況が異なり、ニーズも様々です。学習者が日本で生活し、日本人と日本語で関係を築いていこうとするときに、この教科書が便利な道具として活用され、コミュニケーションのための日本語力を身につけ、伸ばしていただけることを期待しております。

はじめに

TNVNの活動目的にまず「ボランティア日本語教室ガイド」の充実があげられています。すでに1994年、1997年、2000年と3回発行し、今回様式を新たにし4冊目を発行することが出来ました。

東京都内で活動する日本語ボランティア団体・教室および関連情報を一覧できる冊子で、都内の主要な公共施設の外国人窓口をはじめ外国人が大勢立ち寄る場所や日本語ボランティア教室に配布し、ボランティアによる日本語の学習支援を求め人達に閲覧し、日本語ボランティア教室を紹介してもらいます。

学習の場を求めています

都内に在住する外国人や日本国籍を得た人の中には、日本語が不自由なため日本人に自分の意志を十分に伝えられない人達が大勢います。

更に短期間日本で滞在し日本人との交流を求め人も増えています。彼らは日本語での会話が早く上達し、一日も早く日本人と共に地域での安定した日常生活が出来る環境が出来ることを望んでいます。そのため多くの外国人が日常生活に密着した日本語学習の場を求めています。

調査から

まず都の区市行政機関が把握しているボランティア日本語教室を調査、ここから回答を得た団体とTNVNが独自に把握している団体を対象に掲載可否・掲載内容の調査を行いました。その結果、最終的に掲載団体数：161、教室数：191を冊子に掲載できました。

今回の冊子では活動場所・住所とともにメールアドレスを可能な限り掲載しました。掲載団体の学習支援活動はそれぞれ特色を持ち対応方法も多彩です。

一方で数多くの団体が活動していますが学習希望者の要望(会場・曜日・時間・費用など)を満たすにはまだまだです。

調査を通して

◎調査依頼先(区市行政等)の協力を得て、ここでは日本語ボランティア教室活動がどのように把握されているかを知ることが出来ました。



- ◎しかしTNVNの調査には限界があり、特にボランティア活動であるが故にまだまだ調査の線に乗らない活動団体があります。
- ◎冊子には掲載できなかった内容もありますが今後調査結果を纏めてます。
- ◎最も大切なのはこの学習支援活動を支えている多数のボランティア一人一人のパワーの集まりです。
- ◎本調査に掲載された日本語ボランティア教室が中心になりお互いに良き連携を持ち、行政や関連する機関との協力を得て、より一層実効のある地域に根付いた活動が進められるよう願っています。
- ◎今後とも学習支援活動が一層広がり、幅広く都民の一人一人が外国人を地域住民として気持ちよく受け入れ、お互いの理解と健全な地域社会を築いて行くことが望まれます。

フォローアップ

TNVNは独自のホームページ(HP)を開設しており、「ボランティア日本語教室」の検索が可能です。直接希望する日本語ボランティア教室にアクセスし学習の場を知ることが出来ます。

今後はこのHPの充実がTNVNの活動として欠かせないものです。日本語ボランティア教室・団体はもとより、東京都および区市の行政、国際交流協会などとの連携・情報交換を得て、データの更新と新規データを追加し、日本語学習の場を求める外国人のみならず日本国籍を得た人たちへの情報発信を進めていきます。

おわりに

本冊子は東京都の「平成15年度後期東京都民間国際事業助成金」とTNVN会費、および掲載団体のご協力を得て、東京日本語ボランティアネットワークのボランティアスタッフが作成しました。今回の調査を通し都・市区行政、交際交流協会、掲載団体からのご協力・励ましの言葉をいただきました。(梶村 勝利)

Nice to Meet You

行政と協力して

日本語学習すぎなみの会

天坊 千明 (杉並区)

下記のようにこの6年は、行政主催教室に協力させていただくという形で活動しています。今日の地域日本語教育の重要性、困難さを考え、少しでも力になればと奮闘しています。きちんと‘学びたがっている’学習者の方々に啓発される日々です。

◎主催：杉並区教育委員会 社会教育センター

◎教室名：「杉並でくらす外国人のためのほんご教室」

◎会場：丸の内線東高円寺下車 同センター「セッション」

◎実施回数：1年を3期に分ける。火と金夜6時半から8時半

年間60回×1回2時間＝計120時間

◎学習者の受け入れ：事前面接日を持ち、初級を4クラスに分けているが、途中参加も多い。特に上のクラスは初級といっても会話は自由自在、文法や漢字は苦手な方など、色々なレベルが混在している。

◎保育：保育士の方に区費で委託。

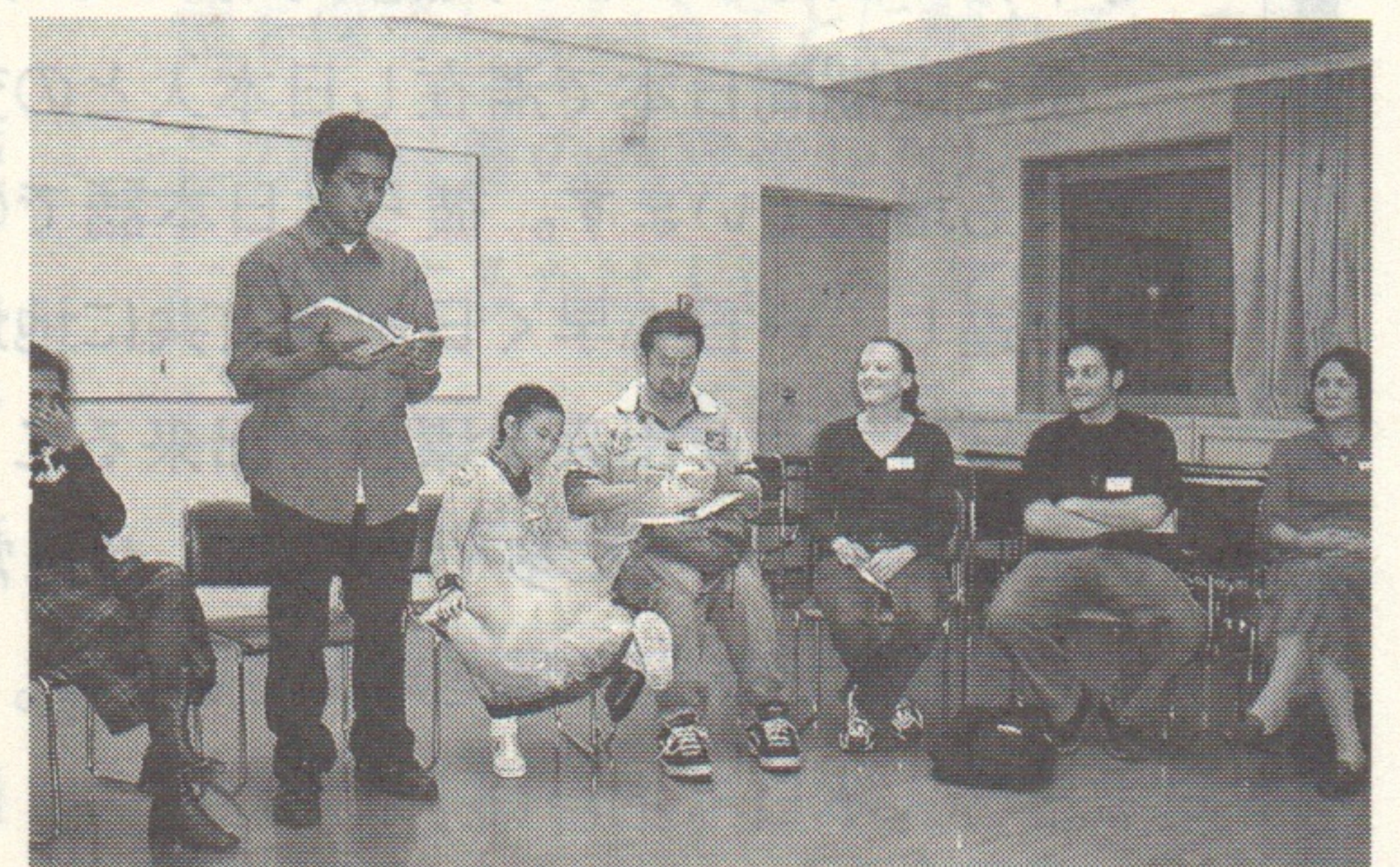
◎支援者：1クラス2人×4クラス＝8人で担当、残りの方は協力者としてその期間は待機するという方

法で模索中。

よりわかりやすく、早く初級日本語基礎を体系的に学べるような工夫、学習者同士の交流と学び合い、共生社会の区民同士というスタンスで個々の生活に合った会話への発展など、気配りも要求される。

◎学習者負担額：教材費として1カ月2000円。支援者側の交通費、イベント費などにあて、「自分を語る」発表、ゲーム、料理会などを設定。

クラスレッスンの長所を生かすと、多種多様なニーズに対応できないというジレンマを抱えています。



市民レベルの国際交流でスタートしました 田無国際交流サークル

飯塚 睦 (西東京市)



田無国際交流サークルは、1992年7月に公民館事業である「市民レベルの国際交流を考える」という講座が基で誕生しました。

発足当時は、市在住の外国の方々を講師として呼びし「世界の料理教室」を開いたり、また公民館事業の「子供

のための国際交流」のお手伝いなどもしていました。

現在の主な活動は「日本語教室」です。それをベースに、日本の伝統文化や習慣などを紹介、体験したり、地域の小学校と交流したり、日頃の日本語学習の成果をスピーチ大会で発表したりしています。また「お国自慢」

では、ビデオ、写真、地図、歌、踊り、衣装などで学習者の故郷を紹介しあったりします。恒例となったTIC新年パーティーでは、みんなが料理を持ち寄り、学習者の司会進行で楽しいものにしようと、スタッフも、学習者も力が入ります。

日本語教室は、月曜日19:00～

20:30、水曜日10:00～11:30です。発足当時は月曜日だけでしたが、日中の時間帯にもという要望があり、4年前から水曜日の教室が歩き出しました。月曜教室には小・中学生、会社員の学習者が集まり、スタッフも仕事が終わって駆けつける人も多いです。水曜日には主婦、英会話学校の先生たちがやってきます。

サークルでは決まった教科書を使わず、サークルのマニュアルに沿って、スタッフの創意工夫で学習を進めます。

歩き出して13年目を迎えようとしていますが、スタッフと学習者が心からふれあい、どんなに少ない日本語でもいいから、気軽に話ができるサークルを目指しています。

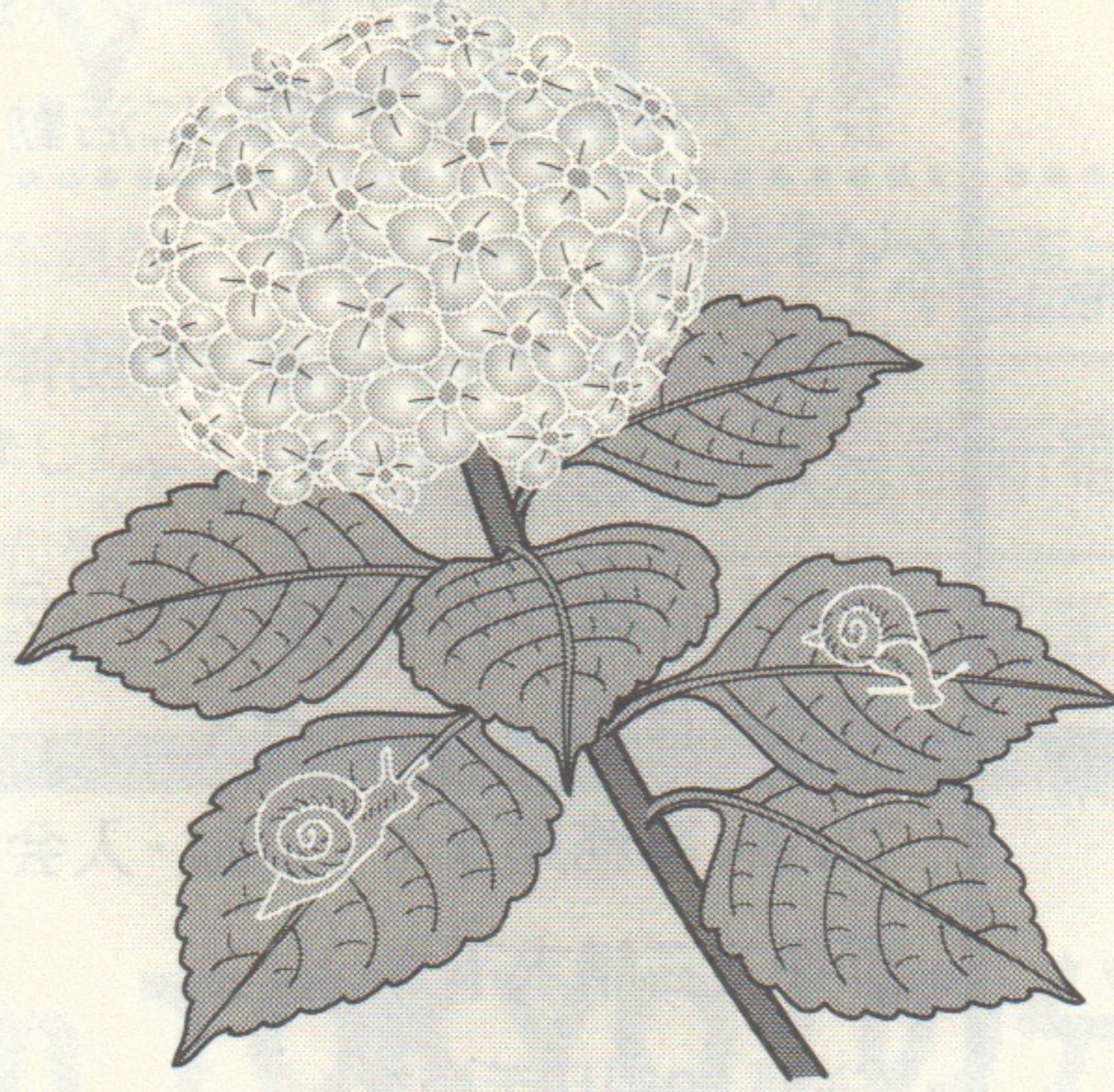
学習者の声

日本の四季

廣澤 淑子 / 台湾
町田国際交流センター (町田市)

「冬きたりなば、春遠からじ」と言う。冬の寒さに耐えた者だけが享受する春。春には、梅、桃、桜と折々の花盛り。台湾生まれの私も桜の花が好きだ。桜樹の下に佇んで、満開の花を見上げると足が動かなくなる。圧巻はその散りぎわにある。風が一斉に花を散らす。花吹雪と言うとか。又、しばし佇む。やがて梅雨が来るが気にしない。そして夏、夏の暑さにも、永年鍛えた私はヘコたれない。私の辞書に「夏痩せ」と言う言葉はない。秋、紅葉の季節に日光で遊んだ。全山紅葉、色とりどりの景色が今も目に浮ぶ。月が満ちて中秋、月餅を供えて満月に一家の安全を祈る。立冬、夏から秋にかけて蓄えた体力で冬の寒さを乗り切ろう。ちらちらと降る雪を見るのも楽しみのひとつ。鍋を囲んで一家団欒、又、目方が増える。でも気にしない、

気にしない。一つ年をとる。“女の一生”の内の一年。「一年を無事に過ごして初日の出」



2月28日(土)午前「第4回日本語教室発表会」が開かれました。前半が町田市民フォーラムの3階のホールでの「発表会」、後半は4階の講習室で「交流会」を行いました。発表会では、子ども教室の学習者4名を含め8ヶ国16名が発表しました(町田国際交流センターの「ぼろんていえVol.21」より)。廣澤さんの原稿は当日発表した内容です。



ボランティアの声

齊藤 広子
八王子にほんごの会 (八王子市)

みんなが楽しんだ
スピーチ大会

「本人は緊張していましたね。何を話すのか内緒だったので、夕べは私たちの方が眠れませんでした。日頃、とても明るい人なので楽しく暮らしています。彼女以上に私たちが受賞を喜んでいます。」これは、スピーチ大会に出場した寧雲華さん(中国出身)のご主人(日本人)のご両親の声です。

当会では、毎年秋に、スピーチ大会を開催し、日頃の学習の成果を発表しています。8教室あるそれぞれの学習の場で、スピーチをした後、希望者などが会全体の大会に参加します。家族や故郷のこと、日本での楽しい経験、文化の違いに戸惑ったこと、将来の夢など、学習者は緊張しながらも、笑顔も見せながら、楽しげに話していました。

第2部は、アトラクション部門で、タイの踊り、フルート演奏、ペルーのサルサ、朗読、歌などが披露され、出場者も見学者も一体となって楽しんでいました。

また、会場のロビー壁面には、会員による写真展も華を沿えました。「国際色豊かで見て楽しい。感動した。」「休憩時間も楽しめていいアイデアだ。またやってください。」

「自分の国の写真を見つけてとても嬉しい。」等の声も聞かれました。

日々の学習の成果を発表する場は、学習者にも支援者にも意義ある楽しいものになりました。また、他の得意な分野でも、みんなが楽しめた夢のようにすてきなひとときでした。



東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局

事務局は下記の時間通り活動しています。

◆日時：毎週金曜日

第1、第3、第5 金曜日／午後2時～4時
第2、第4 金曜日／午後2時～7時

◆場所

東京ボランティア・市民活動センター
JR、地下鉄（東西線・有楽町線・南北線一出口B2b）飯田橋駅下車
セントラルプラザビル 10F ロビー

◆日本語ボランティア相談窓口

日本語ボランティアの活動についてのご相談・ご質問にベテランスタッフがお応えしています。電話でご確認の上、気軽にお越し下さい。
またメールでのお問い合わせにもお応えしています。
ご意見もお待ちしています。

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1
東京ボランティア・市民活動センター
メールボックス NO.4
TEL：03-3235-1171
(呼出：金曜日活動時間帯のみ)
FAX：03-3235-0050
E-mail：webadmin@tnvn.jp
URL：http://www.tnvn.jp/

TNVNへの入会を希望する方に

TNVN は都内および周辺の地域で日本語ボランティア教室・サークル活動をしている団体のネットワーク（連絡協議会）で情報交換を目的に活動を行っています。

活動にご協力をいただける団体・個人のご入会をお待ちしています。

ただし、現在は独自にボランティア日本語教室は開いていません。

TNVN事務局まで「活動・入会案内」を郵便でご請求下さい。

(送料90円切手同封)

◆入会手続

申込用紙に必要事項を記入し、TNVNの事務局に郵送又はFAXでお送り下さい。

E-mailでも申し込めます。

あわせて会費をお振り込み下さい。

会員の方には毎回ニュースレター等を郵送するほか、TNVN主催の講習会等へ参加できます。

◆会費

正会員：年会費3,000円
協力会員：年会費2,000円
賛助会員：年会費1口1万円

◆会費払込み先

郵便振替口座番号00100-1-719259

◎口座名

東京日本語ボランティア・ネットワーク
(通信欄に「年会費」と記入)

ニュースレターの記事大募集!!

TNVNで発行しています ニュースレター Nihongo Network News には、各地域で活動している日本語ボランティア教室の紹介やボランティアの声、学習者の声、その他日本語ボランティア活動に関係する教材・情報を載せています。多くの原稿をお待ちしています。
また紙面についてのご意見をお待ちしています。
ニュースレター編集担当までお寄せ下さい。郵便・メールいずれでも結構です。

TNVNスタッフ募集!!

TNVNの事務局スタッフ・ニュースレター編集員となってTNVNスタッフと一緒にボランティアでご協力いただけませんか。日本語ボランティア活動にご関心をお持ちの方・これから活動をしてみようとの意志の有る方。ご一報をお待ちしています。

e-mail

webadmin@tnvn.jp



ボランティア活動と介護

長寿国といわれて久しい日本ですが、その影響は日本語教室でも例外ではありません。中国からの帰国者や在日の方々そして定年退職後にボランティアとして参加する人々が増えています。

元気で意欲的に活動されている諸先輩の豊富な知識と経験からは学ぶことがたくさんあり、学習者・ボランティアにとっても喜ばしいことです。

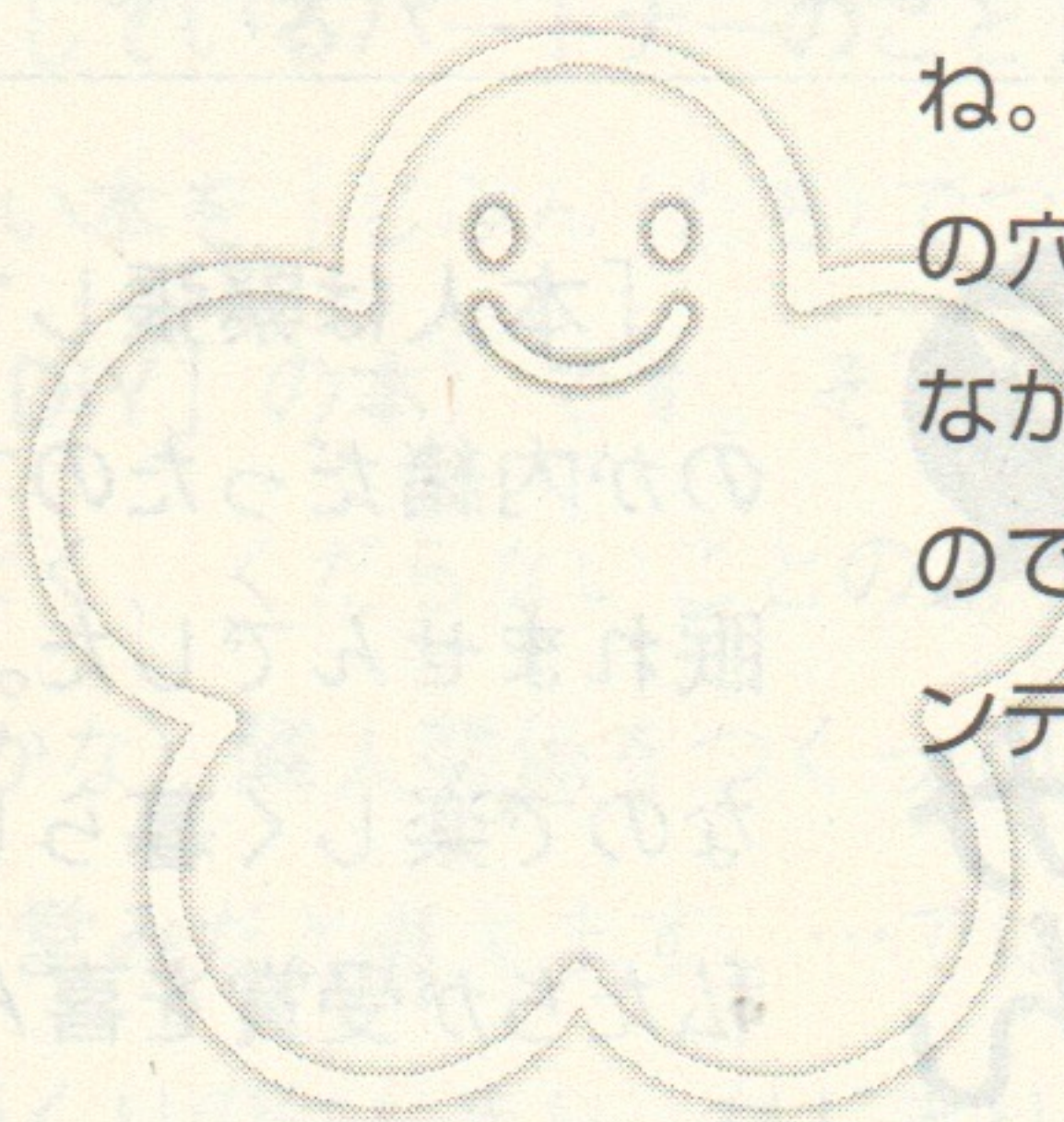
TNVNの活動も11年目に入り日本語学習支援は各所で着実に拡大・定着し、充実してきました。「継続は力なり」の大切さを実感します。

しかし、ボランティア活動を続けたくても出来なくなる事が有ります。多くの場合女性ボランティアが該当します。

身内や老親の介護の為、ある日突然不本意ながらもその活動を休止または停止せざるを得なくなるのです。教室にとっても大変なことですが、当事者の心痛は計り知れません。いつかどこかで活動が再開できるといいです

ね。教室活動でも、その穴を補い協力し合いながら続けて欲しいものです。学習者・ボランティア双方のために。

(山本敬子)



新会員紹介

日本語サークル「こんにちは！」

木曜日の日本語教室
IWC/IAE国際市民の会
日本語学習市場
みんなのにほんご教室
にほんごの会くれよん
武蔵村山日本語の会

会員数

(2004年5月15日現在)

正会員：71団体 協力会員：78名
賛助会員：5団体



- 編集／岡田美奈子、梶村勝利、木村茂、床呂英一、西岡暉純、林川玲子、山本敬子
- レイアウト／鶴田環恵